神戸大学CMX創発医学講演会/医学研究先端講義（先端医学トピックス）

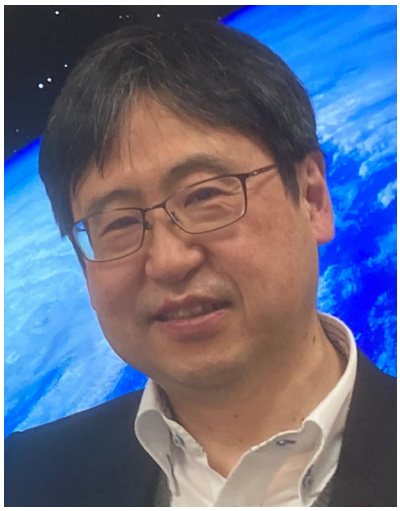
ウイルス粘膜感染制御戦略

Strategy for the control of mucosal viral infection

日時：2026年5月11日（月曜日）
17:30 ～ 19:00
場所：A講義室（外来診療棟4階）+ Web

https://us02web.zoom.us/j/81204831319?pwd=ZZBk2ZXBuhPykZJFLbEp1udH06BQe4.1

*本講演は、医学研究先端講義（先端医学トピックス）を兼ねております.



俣野　哲朗　先生
Tetsuro Matano, MD, PhD

国立健康危機管理研究機構理事
国立感染症研究所所長
Director-General, National Institute of Infectious Diseases（NIID）
Executive Director, Japan Institute for Health Security（JIHS）

インフルエンザウイルスやSARS-CoV-2のような呼吸器ウイルス感染症や、HIV-1のような性感染症は、経粘膜感染により伝播することを特徴とする。この粘膜感染機序の解明およびその解明に基づく粘膜感染制御法の開発は、学術的に重要な課題であることに加え、パンデミック阻止も含めた公衆衛生の観点でも重要である。

我々はこれまで、主に霊長類動物モデルを用いて、経粘膜伝播を特徴とするHIV-1およびHTLV-1の感染伝播機序の解明を進め、さらに感染伝播防御効果を有するCD8陽性T細胞誘導ワクチンおよび中和抗体誘導ワクチンの開発を進めてきた。一方、インフルエンザやCOVID-19等の呼吸器感染症においては、現状のワクチンが優れた発症防御効果を有するが、感染伝播防御効果については十分ではなくvariants流行にいたっていることをふまえ、Trained Innate Immunity誘導に着目した防御法開発を推進している。

本講演ではこれらの取組みを紹介する。

担　当：大学院医学研究科 附属感染症センター　臨床ウイルス学分野
教授　森　康子
主　催：メディカルトランスフォーメーション研究センター（CMX）
連絡先：研究支援課研究企画係 天羽（内線5189）
E-mail: k9shien@med.kobe-u.ac.jp